

ブロッコリーの黒すす病（病原の追加）

平成 30 年 7 月、石狩地方のブロッコリーほ場において、黒すす病の病徴に酷似する葉の黒斑症状部分に、既報告の *Alternaria brassicicola* (Schweinitz) Wilshire とは異なり大型の分生子を持つ *Alternaria* 属菌が密生する様子が確認された。黒斑症状から得た分離菌をブロッコリーの葉及び花蕾に接種したところ、原病徴が再現され、接種菌が再分離された。形態的特徴及び、分子系統解析の結果から、分離菌は *A. brassicae* (Berkeley) Saccardo と同定した。道内現地ほ場で見られる黒斑症状の病原菌種は *A. brassicicola* が多くを占めたが、*A. brassicae* も確認され、両菌種が混発しているほ場もあった。また菌種による明確な病徴の違いは認められなかった。以上より、*A. brassicae* をブロッコリー黒すす病の病原として追加することを提案した。

（中央農試）